

二周め 令和七年

森野 水琴

令和七年一月四日

スターギフトという仕組みが始まった年が明け、スターギフト 二年になった。まだまだ趣味の範囲でのスターギフト購入だが、年内には道楽に昇格しそうである。

三が日は駅伝のテレビ観戦さんまいで、きょうが走り初めである。四月のハーフラソンに向けて練習に励みたい。

実は古文書解読検定を受験する。今月中旬に検定問題が郵送されてくる。まずは三級から受験するのだが、「古文書くずし字」を勉強しているところである。

令和七年九月十九日

一月に書いたきりで、もう九月である。

古文書解読検定三級は一回めの成績が二十点満点中 三点で不合格、四点以上が合格だった。

二回目の成績は二十点満点中 五点で不合格、七点以上が合格だった。

上位八割に入れば合格という、ゆるき門にもかかわらず、二回とも不合格であった。来年また挑戦したい。

令和七年十月四日

土曜日にフランス語を習いに行く日常が戻ってきた。

午後一時からは図書室で勉強することになっている。

隣のテーブルには、常連の女性が熱心に勉強している。

実は、私の故郷に縁のある人だと、風の便りに聞いていたので、どのような縁なのか尋ねてみると、お母さんの実家が私の実家と同じ町（今では隣接した町村が合併して市になっている）にあるという。お母さんの年齢も私と同じ。お母さんのフルネームを旧姓で言ってもらったら、小中学校の同級生であった。

長生きはするものである。こんな素敵な出逢いがある。

図書室で勉強する楽しみが、ますます増えた。

令和七年十一月三日

文化の日である。私の誕生日でもあり、七十歳になった。

六十、七十、はなたれ小僧とも言われている。八十歳以上の人から見れば、まだ経験が浅いということか。

あと五十年で百二十歳。一周六十年のコースの三周めに突入することになる。

よわい
年齢は着実に重ねられ、体力は落ちていく。辞書を読む速度も落ちていく。

とはいえ嘆いてばかりもられない。時間かかってもいいから努力していきたい。

令和七年十二月二十五日

「歌会始の儀」の入選者十名が発表された。今回も落選してしまったが、次回に期したい。

入選者の最年長は八十歳、最年少は十七歳、年齢層をみると、八十歳代 一名、七十歳代 二名、六十歳代 一名、五十歳代 三名、三十歳代 一名、十歳代 二名である。

天皇陛下に招かれて歌を詠む召人めしうびに外国籍の翻訳家を選ばれた。外国籍の召人は初めてである。やまと歌が翻訳家を通して世界に発信されるのは励みになる。

やまと言葉の魅力を世界に発信していくのが来年以降の目標になる。